

津高

津高校だより

令和元年度 第3号 編集・発行 三重県立津高等学校

「実りの秋」です。前期も終盤戦。～文化祭も部活も勉強も充実～

学校見学会や文化祭等、地域のみなさまや中学生に対して学校を開放し、ありのままの津高を見て、感じていただく時であります。津高は前期末を迎え、夏休みの成果を学習でも部活動でも発揮する時期です。8月28・29日の学校見学会には、のべ約1000人の参加がありました。(学校見学会：授業見学)



先輩とふれ合い、大いに学ぶ体験

東大キャンパスツアー（7月17・18日）



津高では、大学の最先端の研究や実際の大学生生活を体験する目的で、毎年、東京大学でキャンパスツアーを実施しています。今年も、1年生34人が参加し、東大の本郷キャンパスで工学部、医学部の講義や実習の体験を行いました。講義は、津高OBの先生方に担当していただき、大学での勉強や研究の心構えを学ぶことができました。



夜は、OBの現役学生との座談会を持ち、翌日はTGG（TOKYO GLOBAL GATEWAY）にてオールイングリッシュでの語学研修プログラムに参加しました。大学を身近に感じ、大いに刺激を受けた2日間でした。

異文化体験から自分の生き方を考える 第13回マレーシア研修

7月22日から5日間、1、2年生33人がマレーシア研修に参加しました。現地でのホームステイや学校訪問での生徒同士の交流を通して異文化を体験するとともに、お互いの文化を発信し合いました。

ホームステイでマレー文化に触れる



2、3日目は、静かな田舎町テメロー村で、ホームステイしました。ホスト家族に温かく迎えられ、各家で2、3人の生徒たちが現地の暮らしを体験しました。マレーの食事、習慣等、初めてのことばかりでしたが、生徒たちは身振り手振りを交えながら交流し、大きな刺激となりました。夜のパーティーには、全員が民族衣装を着せてもらい、楽しみました。

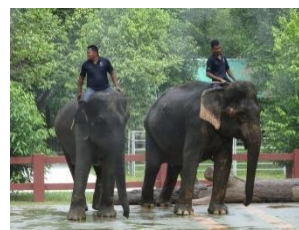
学校訪問で日本文化を紹介

3日目は午前中にクアラルンプール市内の学校を訪問しました。歓迎行事でお互いの学校や文化を英語で紹介しました。体験を通してマレー、中華、インド等の風習や食文化に学ぶとともに、生徒のみなさんと交流を持つことができました。



クアラルンプール等でマレーシアの今を体験

3、4日目には首都クアラルンプール周辺の観光に行き、エレファントサンクチュアリーで自然を楽しむ一方、王宮やピューター工場等を訪れ、歴史や宗教、文化の多様性の中で発展するマレーシアの現在の姿について学びました。



2019文化祭 テーマは「華～咲かせ青春～」

9月4日～7日に生徒会主催の「津高文化祭」を開催。4日には県総合文化センターで非公開の部、7日には津高で一般公開の部を催しました。

部活動・有志の演技が華麗に舞い上がる～非公開(4日)

午前中は吹奏楽部の幻想的な演奏で演技がスタートし、音楽部が全国2位のハーモニーを披露。続いて邦楽部が優雅な琴の合奏を行いました。



午後は、軽音楽部、ジャグリング部演



劇同好会、ダンス部と多彩な演技が舞台上で繰り広げられました。ト리는今年も教員劇。コミカルな演技に会場は笑顔いっぱいになりました。

クラスの創造力を結集して～公開(7日)

クラスやクラブの華を咲かせるため、知力と才能を結集させていました。展示やイベント、美術や書道の作品展示、食品の模擬店やPTA主催の喫茶等、生徒を中心に、保護者、教員も一体となって取り組み、文化祭は多彩なものになりました。体育館や武道場では有志のバンドや吹奏楽、音楽部のコンサートも開催されました。中庭での書道部の恒例のパフォーマンスには多くの人が足をとめ、その迫力に見入っていました。



部活動等の成果報告

■ ボート部

- ・全国高校総合体育大会
男子ダブルスカル 全国7位
千葉 早翔 選手(3年)
山本 惇司 選手(3年)

■ 音楽部

- ・第72回中部合唱コンクール 出場
(9月28日 長良川国際会議場
メインホール)

■ 書道部

- ・第43回全国高等学校総合文化祭
竹内 凜(3年) 三重県代表出品
- ・第20回高校生国際美術展
江藤 千裕(3年) 奨励賞
- ・第18回全国書道展
高橋 直弘(2年) 大賞

生徒による津高の魅力発信 高校生活入門講座

8月22日、「津高入門講座」を三重県総合文化センターで開催し、約900人の中学生、保護者、教育関係者の参加がありました。

ラグビー部員の応援団による中学生へのエール、音楽部の合唱、生徒の寸劇による学校紹介等が行われました。勉強だけでなく、さまざまなことに挑戦する生徒の姿や学校行事等の紹介が行われ、参加者から「とてもよくわかった」と多くの感想を頂きました。ロビーでは部活動やSSHのポスターも展示されました。



「探究」のための文章表現を学ぶSS探究活動 I

8月30日に1年生の「SS探究活動 I」において、三重大学の和田正法先生(教養教育院)による「レポート・論文について」の講義がありました。探究活動をすすめるうえでの実用的な文章表現を身につけることが目的です。

講義に先立ち、生徒たちは夏休みの課題として、新書を一冊読んで、400字程度の「ブックレビュー」を書きました。和田先生のこの日の講義を受けて、今後、お互いのブックレビューを読んで、評価を行います。和田先生が強調されたのは、「主張をまず述べて、後で丁寧に説明を加える」という大原則でした。具体的で身近な例を示しながら、生徒たちと対話しながら講義が進められ、生徒たちの理解は深まり、今後の探究活動の基礎づくりができました。

